PDF Compressor Free Version

ふるさとの歴史 こぼれ話 Vol.5

水害を防ぎ、新しい町を創る

―長良古川・古々川の締め切りと岐阜特殊堤―

長良橋の下流２００メートル右岸堤防上に「長良川上流改修工事記念碑」が建っています。この西北には長良川国際会議場・メモリアルセンター・長良川競技場などがあり、今秋には、「ぎふ清流国体」が行われようとしています。周りにはマンションや住宅、商店などが広がり、落ちついた町並みとなっていますが、昔からこうだったのでしょうか。

現在の長良川とメモリアルセンター付近

1．昭和の初めまで

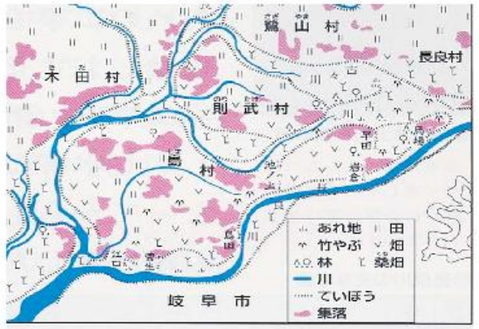
昭和の初めまで、長良川は長良橋の下流で3つに分かれて流れていました。真ん中を流れるのは長良古川で、早田と則武の間を流れていました。右側は長良古々川で、則武と鷺山の間を流れていました。そして、左側を流れているのが今の長良川です。

昭和初めの長良川の様子

大雨が降ると、古川・古々川にも水が流れ込み、時には堤防を乗り越え溢れ出し、一面水浸しになることが度々ありました。そのため、古川・古々川の周辺には、川原や荒れ地が広がり、川岸は、竹やぶ・松林で覆われていました。

江戸時代から、毎年のように水害に苦しんできた則武・島・木田・河渡など、川北に住む人たちは、水害の一番の原因である古川・古々川の締め切りを願い出ていました。

明治の初めまでは、長良や福光・川南の人たちの反対があってできませんでした。しかし、１９００年（明治33）頃からは、川北の人たちが共同で締め切り工事の実現を訴えるようになりました。



締め切り工事前の土地の様子

木曽三川の下流改修工事が終わると、国会で上流改修工事が取り上げられましたが、国はなかなか工事に着手しませんでした。川北の人たち（川北水害予防組合）は、１９１６年（大正5）、川南の岐阜市や稲葉郡の村の人たちと協力して、県知事や議員たちにも応援してもらい、早く工事を行うよう国に働きかけました。こうして、１９２１年（大正10）、国は上流工事に取りかかり、１９３３年（昭和8）に長良川右岸（川北）の改修工事を始めました。

2．締め切り工事の様子

長良川上流改修工事の中心は、長良古川・古々川を締め切る工事と、右岸の江口から福光までの10キロメートルの堤防造りでした。

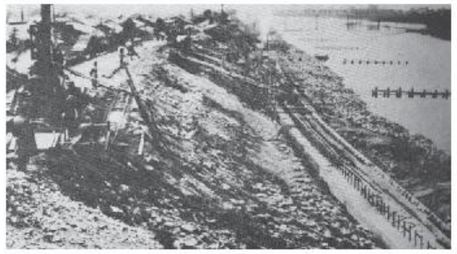
早田馬場と福光の間で、長良古川・古々川を締め切って堤防を造るにあたり、長良川本流の川幅を北に拡げることになりました。そのため、早田と島地区で約３００戸ほどの家が立ち退かなければなりませんでした。以前は、忠節橋の所で１７３メートルだった川幅が、２６６メートルに広げられました。そして、堤防は、堤防敷で元の幅の3倍近くになり、高さも1倍半ほど高くなりました。

工事に必要な土や石を運ぶのに、外国から取り寄せた機械や蒸気機関車を使いましたが、その他、馬がトロッコを引いたり多くの男たちがもっこで土や石を運んだりしました。

完成までの6年間に延べ20万人が働きました。

こうして、川北の人たちが願ってきた締め切り工事は、１９３９年（昭和14）、ついに完成しました。

昭和初めの忠節橋と古い堤防

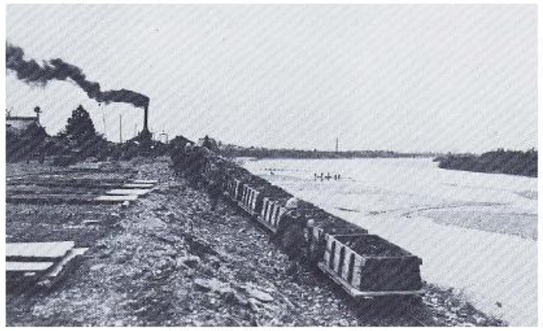

トロッコが走る右岸・東島付近の様子

3．岐阜特殊堤を築く

川北の堤防工事とあわせて、川南の堤防も今まで以上に強くしなければならなくなりました。長良橋のあたりから忠節橋までの堤防が切れると、岐阜市中心部から加納までが水浸しになってしまうからです。

そこで、たくさんの鉄骨やコンクリート・玉石を使った特別の堤防工事が行われました。これが、「岐阜特殊堤」と言われているものです。

石垣は水の力を弱めるために曲線で造られ、水かさが増えてくると、手すりの溝に畳を1枚ずつはめ込んで、少しでも高くなるようにしました。

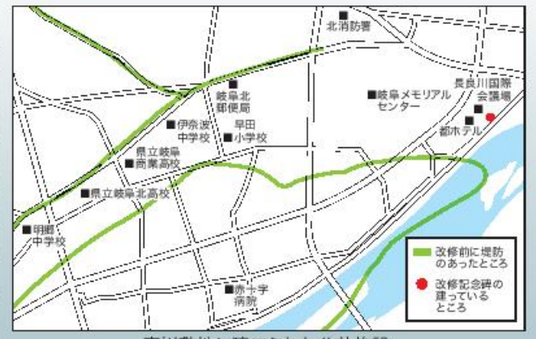

左岸・岐阜特殊堤工事の様子

4．川のあとの開発と今

締め切りによってできた土地には、１９４４年（昭和19）に岐阜市立中学校（昭和16年創立・今の岐阜北高校）が移転して来ました。その後も、多くの学校や岐阜県総合運動場（現メモリアルセンター）などができました。

古々川の跡の鷺山方面は、１９５５年（昭和30）頃から、消防署や保険局、市営や県営住宅などが建ち、それにつれて商店が並んでいきました。古川のあとの近島付近は、県営住宅やアパートが次々と建ち、住宅地となりました。それまで畑だった所も区画整理が進みました。

現在の岐阜特殊堤



廃川敷地に建てられた公共施設

現在、川北の地域は、実に落ちついた文化的なエリアとなっていますが、こんな歴史があったのです。

○この文章は「私たちの岐阜市」「島郷土史」「早田郷土誌」「木曽川上流80年のあゆみ」などをもとに、後藤征夫がまとめました。

岐阜市歴史博物館ボランティア
「お話・岐阜の歴史サークル」
代表　後藤　征夫
http://book.geocities.jp/gifurekisi/rekisitop.htm
TEL 058-231-6726